

NPO 法人 未来アジア技術フォーラム Technology Forum for the Future Asia (TeFFA)

未来亞洲技術論壇



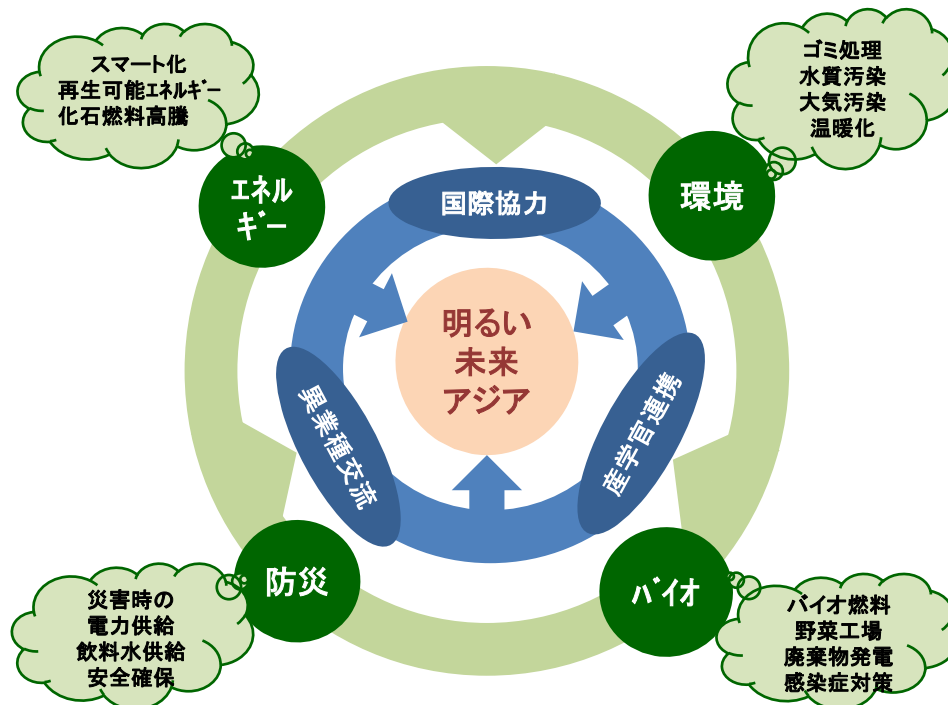
TeFFA

目的

エネルギー、環境、防災、バイオの分野において、国際協力、異業種交流、産学官連携を通じ、新たな技術をもとにして社会や産業、日本とアジアの人々の生活の発展に寄与する。

主な活動

国際協力事業、プロジェクトの企画・創生、コンソーシアムの創生、技術調査、講演会・研究会・見学会などの開催、出版などの啓発事業など。



背景

日本とアジアは転換期にある。日本は少子高齢化、国内市場の縮小や雇用機会の減少、財政赤字の増大、エネルギー供給の不安定化などの課題が顕在化している。一方、アジアでは発展途上の国が多く、技術的支援が望まれている。日本から技術、社会システムを発信し、アジアに広げていくことが、これらの課題を解決するための一つの方法と考える。

経緯

東京工業大学 OB が参加する「未来技術研究会」では、社会・産業の課題に対して異業種交流、技術支援、啓発活動が 20 年以上続けられている。ここで培われた経験や知識を本 NPO に継承し、アジアの未来に貢献する。

活動内容

太陽エネルギー共同開発、アジア民間企業との共同研究、日本の自治体での実証試験、国際シンポジウムの開催など。

TeFFA メンバーの紹介



加藤 廣 理事長
元自動車 CALS (V-CALS)
プロジェクト主査

ご挨拶

本 NPO は東京工業大学 OB を中心とする大学出身者と民間企業出身者で構成し、産学連携の研究活動をコーディネートし、アジアの発展の貢献する共同研究プロジェクトづくりをしています。皆様のお力添えを頂ければ、幸いに存じます。

大倉一郎

大阪市立大学特命教授
東京工業大学名誉教授
元東京工業大学副学長



東京工業大学にて酵素反応機構、エネルギー変換等のバイオテクノロジーの研究に従事
日本化学会学術賞、基礎錯体工学研究会技術賞
日本化学会欧文誌論文賞、石油学会賞等を受賞

嶋田隆一

筑波大学特命教授
東京工業大学名誉教授



日本原子力研究所にて
臨界プラズマ実験装置 JT-60 の開発に従事、
東京工業大学および筑波大学にて磁場コイル電源、フライホイール、超電導電力貯蔵、
パワーエレクトロニクス等の研究に従事
電気学会論文賞、電気学会進歩賞等を受賞

岩田 衛

神奈川大学教授



新日本製鉄株式会社建築
事業部にて建築鋼構造システムの技術開発をした後、
神奈川大学にてサステナブル建築構造の研究に従事
日本建築学会論文賞、日本建築学会技術賞、
文部科学大臣表彰科学技術賞等を受賞

岡田祐之

(株) みらい創造機構
代表取締役社長



東京電力にて新技術開発に従事、その後事業開発部門でベンチャーキャピタルを運営し、
事業創生からサービス化、営業戦略までの戦略立案と実行の経験を積む
2014 年にベンチャーファンド株式会社
みらい創造機構を設立

森里直博

(株) プラスター代表
取締役社長
(株) アリスマティック
取締役 CTO



日立ソフトウェアエンジニアリング、アクセンチュア、IBM を経て、2006 年に株式会社プラスターを設立
ウェブページの属性を分析し、瞬時にセグメント配信を可能とするシステム等を開発

組織

理事長： 加藤 廣 (金属工学・自動車)
副理事長： 国友 享二 (機械・技術企画)
内藤 誠一 (電子・センサー)
専務理事： 平井 利弘 (化学・エネルギー)
常務理事： 大倉 一郎 (化学・バイオテクノロジー)
監事： 吉田 透 (化学工学)
社員： 飯沢 篤志 (ICT)
岩田 衛 (建築・構造)
岡田 祐之 (電気・電力)
加藤 俊一 (電子・コンピューター)
北山 一美 (応用物理・原子力)
劔持 克夫 (ICT)
嶋田 隆一 (電気・パワーエレクトロニクス)
難波 俊樹 (教育工学)

研究開発部

社員： 小杉 幸夫 (センサ・脳科学)
齋藤 元也 (農学・リモートセンシング)
森里 直博 (ICT)

協力企業

株式会社田中測量設計

設立日

2013年9月19日

所在地

〒184-0004
東京都小金井市本町
3-1-20

発行日

2019年4月1日



URL: <http://www.teffa.org>



マイケル・
ノーベル博士

TeFFA の主な実績

日付	イベント (開催場所)	概要
2018年 11月21日	第7回 マイケル・ノーベル サステイナビリティ・ テクノロジー・シンポジ ウム (東工大蔵前会館 手島精一記念会議室) プログラム⑤ 開催報告⑤	「持続可能な社会に貢献する電気自動車と電池」をテーマにEVと車載用電池の現状と将来について討議した。ノーベル博士が来日途上の交通トラブルにより、間に合わなかった。急速インドから参加した Kumar 氏にインドのEVを中心とした産業について講演を依頼した。名古屋大学の佐藤特任教授からEVと電池に関する全般的状況の講演があり、日産自動車の久村氏から日産自動車のEV戦略を中心にプレゼンがあった。東工大の菅野教授はビデオにて最新全固体電池の開発について講演した。パネルディスカッションは国際協力の可能性を討議した。
2018年 7月6日	第7回筑波大学パワーエ レクトロニクス研究会 (筑波大学東京キャンパス) プログラム⑤ 開催報告⑤	「SiC-MOSFET デバイスの電気自動車への応用」をテーマに開催し、80名が参加した。筑波大学からは2件の研究内容を報告し、東工大からは自動車用のSRモータについての報告があった。産総研からはSBD内蔵SiCトレンチMOSFET (SWITCH-MOS)の研究成果の、産業界からは日産自動車のEV戦略についての発表があった。
2018年 6月14日	第2回米日中先端医療技 術交流会 (東工大すずかけ台キャン パス) プログラム④ 開催報告④	中国とインドからの参加者、学生を含めて約40名が集い、Stanford大学のZhen Cheng教授の講演、東工大生命理工学院の3教授の講演を熱心に聴講し、ガン治療を中心とした医療に関する最先端の技術について討議した。
2017年 11月9日	第6回 マイケル・ノーベル サステイナビリティ・ テクノロジー・シンポジ ウム (東工大蔵前会館 手島精一記念会議室)	「持続可能な社会に貢献する水素技術の役割」をテーマに、日本の先進的な水素技術について討議した。ノーベル博士から自身が主催するNobel Sustainability Trust (NST)の紹介の後、トヨタ自動車のFCV、パナソニックのENE-FARM、東工大でのグローバル水素エネルギー研究についての講演があった。また、九州大の広瀬WPI招聘教授はビデオ参加